

2020(令和二)年度 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：高エネルギー天体现象の多角的研究
英文：comprehensive study of high-energy astrophysical phenomena

研究代表者 川口 恭平 (ICRR)

参加研究者 (抜粋) 大平豊 (東京大学), 佐野栄俊 (国立天文台), 川島朋尚 (宇宙線研), 荻原大樹 (東北大学), 木村成生 (東北大学), 川中宣太 (京都大学), 柴田晋平 (山形大学), 橋本哲也 (国立清華大学), 和田知己 (京都大学), 林航大 (京都大学), 霜田治朗 (名古屋大学), 須藤貴弘 (東京大学), 星野真弘 (東京大学), 岩本昌倫 (九州大学), 富田沙羅 (東北大学), 伊藤裕貴 (理研), 衣川智弥 (宇宙線研), 松岡知紀 (京都大学), 高橋和也 (京都大学), 米田浩基 (理研), I. Cho (KASI), M. Giroletti (INAF), A. Levinson (Tel Aviv), D. Paneque (MPP), J. Park (ASIAA), H-Y. Pu (NTNU), M. Teshima (ICRR/MPP), S. Trippe (SNU)

研究成果概要

本研究課題では毎年、多角的な視点から高エネルギー天体现象について議論し、次世代の天文学、特に重力波や深宇宙の観測で解明が期待できる物理・宇宙史について意見交換することを目的するシリーズ化された研究会を開催している。

本年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、対面での研究会が制限された。しかし、開催場所に囚われないオンライン研究会が広く受け入れられるこの機を生かし、他グループの研究会との共同開催によるオンライン・ハイブリッド研究会を開催し、他分野との交流・議論を深めた。2020/12/14, 17 に開かれた研究会「高エネルギー宇宙物理学研究会 2020」では、日本全国の高エネルギー天体物理学を専門とする若手・ベテランによるオンライン口頭・ポスター発表が開催された。2021/1/18-20 には「Black Hole Astrophysics with VLBI」と題し、国内・国外の研究者による研究会を共同開催し、ブラックホール(および中性子星)の降着流・ジェット・ウィンドに関して、EHTを含むVLBIによる高解像度観測および理論を軸に幅広いテーマを議論・意見交換をした。

整理番号 F26